

15/08/12

【アジア特Q便】 吳軍華氏「中国を視る」 米国における中国専門家の世代交代インパクト
QUICKではアジア特Q便と題し、アジア各国・地域の経済動向について現地アナリストや記者の独自の視点をニュース形式で配信しています。今回は、日本総合研究所理事・吳軍華氏がレポートします。

北京でもワシントンでも米中関係の重要性に対する認識が高まっているが、米中間の信頼関係がニクソン訪中來もっとも低いレベルにまで失墜している。この結果、米中関係が大きく揺れ動いている。こうしたなかで、今後の米中関係にどのような展望ができるか。米国サイドから考えてみたい。

米国に限らず、一国の対外政策の形成には多くの要素が絡む。今回は一先ず米国の対中政策の意思決定に大きなインパクトを持つ専門家の影響という視点からみてみることにする。

こうした視点からみると、もっとも注目すべき動きの一つとして取り上げられるのは米国で中国を対象に研究している研究者の間で世代交代がこれから本格的に進み、それに伴って今後の対中政策に少なからぬインパクトを与える可能性が高いということである。

ケネス・リバーサル・ブルッキンス研究所シニアフェロー・元国家安全保障会議アジア部長、ダグラス・パール・カーネギー国際平和財団副所長・元大統領特別補佐官、デビッド・ランプトン・ジョーンズ・ホプキンス大学教授・元米中関係全米委員会主席といった1940年代から50年代初期生まれで冷戦時代の後半からシンクタンク・大学と政府の間をまたがって米国の対中政策の形成に大きな役割を果たしてきたシニア世代の中国問題専門家の高齢化が進むのにつれて、1960年代以降生まれでポスト冷戦時代に育ててきた比較的若いジュニア世代の中国問題専門家が急速に台頭してきた。このうち、1962年生まれのトーマス・クリステンセン・プリンストン大学教授がすでにブッシュ政権の東アジア・太平洋担当国務副次官補を担任したことに象徴される通り、アラスデア・イアン・ジョンストン・ハーバード大学教授やティラー・ブラベル MIT 助教授を含むジュニア世代の中国問題専門家の多くがいつかの時点で政府入りし米国の対中政策の第一線で活躍する可能性が高い。

米国では、学問にとどまらず、現実の世界への応用に意欲を持つ学者にとって、大学やシンクタンクといったアカデミックの世界で名声を獲得した後、政権の一員になり自らの専門知識を政策意思決定に生かすというのは一種の花道である。この意味で一流の学者による中国問題専門家の世代交代が起きるのは自然の流れである。にもかかわらず、なぜ、今後の米国の対中政策、ひいては米中関係を展望するに当たって中国問題専門家の世代交代に注目すべきだと主張したのか。主な理由として次の2点を取り上げることができる。

まず第1点は、シニア世代の中国問題専門家とジュニア世代の中国問題専門家が異なる視点から中国問題を分析する傾向があることである。具体的には、シニア世代のほとんど

が比較政治学や歴史学の学術的訓練を受けた学者であり、中国を全体として捉えて研究する志向が強い。これに対し、ジュニア世代の中で特定分野、または特定のテーマに絞って中国問題にアプローチしようとしている傾向がある。なかでも、軍事、安全保障の視点から中国を研究する学者が多い。

もともと、中国を総合的に研究するスタイルと比べて、特定の分野とテーマに絞って研究した場合、学術研究としての質がより高まる可能性が高い。しかし、政治システムや価値観はもとより、歴史や文化伝統などの面においても根本的に違う中国への政策的対応を考案した場合、個別分野からの分析だけでなく、中国を総合的に分析したうえでのマクロ的視点からのアプローチがきわめて重要だと思われる。

第2点は、中国研究にどれだけ個人的感情を注いだかという点でシニア世代とジュニア世代で大きな差があるとみられることである。多かれ少なかれ、中国の歴史、文化に惹かれたことはシニア世代の中国問題専門家が若き青春時代に中国に関心を持った契機であった。このため、後日の研究活動を展開するにあたって情緒的影響を完全に払拭しきれないことが多い。これに対して、ジュニア世代のほとんどは最初から中国を単なる研究の対象としてとらえたために、中国問題をより客観的に研究できる可能性が高い。

米中関係のあり方をいろいろの側面から捉えることができるが、筆者は米中関係が究極的に協調によるメリットと対立に伴うデメリットのバランス関係だと認識する。このため、協調がプライオリティとしてとらえられた場合、関係の安定の度合いが高まり、一方、対立に焦点が絞られてしまうと、両国の関係が大きく揺れ動く。この認識が正しいならば、中国問題専門家の世代交代が進むのにつれて、米国の対中政策が今後米中間の対立的側面をより重視して展開していく可能性が高いと予想されよう。